

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語講読
科目基礎情報						
科目番号	5MG15			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	材料工学科(2016年度以前入学生)			対象学年	5	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	プリントをその都度配布する					
担当教員	横溝 彰彦					
到達目標						
1. アメリカの大学で開講されている一般教養レベルの社会学系の授業の教材を読んで、概要を理解できる。 2. 分からない表現があっても、読み飛ばして文脈から概要を把握しようとする姿勢を身に付ける。 3. 読んだ内容について自分の考えを述べることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
内容理解	アメリカの大学の一般教養レベルの授業教材を読んで詳細を理解できる。		アメリカの大学の一般教養レベルの授業教材を読んで概要を理解できる。		アメリカの大学の一般教養レベルの授業教材を読んで概要を理解できない。	
文脈から推測	分からない表現があっても、読み飛ばして文脈から大意を把握できる。		分からない表現があっても、読み飛ばして文脈から大意を把握しようとする姿勢がある。		分からない表現があっても、読み飛ばして文脈から大意を把握しようとする姿勢がない。	
意見の発表	読んだ内容について自分の考えを英語で述べることができる。		読んだ内容について自分の考えを日本語で述べることができる。		読んだ内容について自分の考えを述べるできない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英語そのものを学ぶために英語を読むのではなく、特定の分野を学ぶために英語で文献を読む。ある程度まとまった量の難易度が高い英文を読んで理解できるだけなく、その内容について議論できるようになることを目的とする。					
授業の進め方・方法	予め指定された英文を予習で読んでおき、授業中にその内容について議論する。 語彙や文法に関する説明は必要最小限度に留める。 毎回の授業の最後に小テストを実施し、その授業の理解度を評価する。					
注意点	(1) 点数配分：中間試験30%、期末試験30%、小テスト40% (2) 評価基準：60点以上を合格とする。 (3) 再試験は行わない。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		授業準備や授業中の活動について理解する	
		2週	良好な人間関係の構築		良好な人間関係の構築に関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		3週	衝突への対処法		衝突への対処法に関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		4週	ボディランゲージとパラランゲージ		ボディランゲージとパラランゲージに関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		5週	グループでの役割		グループでの役割に関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		6週	リーダーシップ		リーダーシップに関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		7週	Review		これまでの内容を復習する	
		8週	中間試験		これまでの内容の理解度を測定する	
	4thQ	9週	中間試験返却、見直し		試験の結果を基にこれまでの取り組みを振り返り、改善点を考える	
		10週	アイデンティティの種類		アイデンティティに関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		11週	男女のコミュニケーションの違い		男女のコミュニケーションの特徴に関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		12週	男女の友情		男性の友情と女性の友情に関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		13週	自民族中心主義、ステレオタイプ、偏見、差別		自民族中心主義、ステレオタイプ、偏見、差別に関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		14週	人種差別		人種差別に関する英文の内容を理解し、自分の考えを述べることができる	
		15週	Review		これまでの内容を復習する	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
評価割合						

	試験	小テスト				その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0